



令和3年3月

米沢市文化財年報 No.33

米沢市教育委員会



▲史跡館山城跡保存整備検討委員会の現地指導風景

たてやまじょうあと
おおみなみ
館山城跡は、平成28年3月1日付けで国の史跡に指定されましたが、平成28年度以降、大南遺跡や花沢A遺跡等の大規模な開発事業に伴う記録保存目的の緊急発掘調査が相次ぐこととなり、館山城跡の保存・整備目的の発掘調査や整備事業を一時休止せざるを得ませんでした。これらの調査対応がようやく終了し、今年度は史跡指定後としては初となる発掘調査を5年ぶりに実施することができました。調査成果は、文化財事業特集のページ（P6・7）で詳しく紹介しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症で様々な事業に影響が出ており、収束への道筋も不明瞭です。このような混乱の中でも地域の文化財をしっかりと保存・活用し、少しでも明るい話題を発信していきたいと考えています。

一般文化財事業

一般文化財事業では、今年度も国庫補助事業をはじめとして例年以上に多岐にわたる事業に取り組みました。以下、特に重点を置いた事業について紹介します。

【国指定史跡上杉治憲敬師郊迎跡（普門院本堂）保存修理事業】

上杉治憲敬師郊迎跡は、米沢藩を復興させた「名君」として知られる上杉治憲（鷹山公）が師の細井平洲先生を郊迎した地として、昭和10年に国の史跡となりました。今年度は普門院本堂工事の2年目で、解体工事を中心に進め、耐震診断を行いました。

また、活用事業として伝国の杜エントランスにおいて保存修理を紹介するパネル展示を行いました。

【文化財の修理】

昨年度からの継続事業として上杉神社所有の国重要文化財「服飾類」・「明冠服類」と西明寺所有の市文化財「木造十一面観音坐像」の修理を実施しています。「服飾類」については、関連して文化庁による次期修理候補の調査を実施しました。

また、新規事業として、個人所有の国重要文化財「長尾上杉氏印章」と上杉神社所有の国重要文化財「鎗（城州埋忠作）」の修理を開始しました。それぞれ国・県・民間財団などの補助・助成を受けながら、修理を進めています。

【文化財の新指定】

法音寺所有の「金銅密教法具」（五鈷杵・種子五鈷鈴）が令和2年9月30日付けで国指定重要文化財（工芸品）に指定されました。本文化財は上杉家とともに米沢に移り、秘仏の善光寺如来像とともに法音寺にもたらされたものです。

また、市指定文化財であった笹野観音堂が令和2年11月4日付けで山形県指定有形文化財（建造物）に指定されました。



▲保存整備検討委員会の様子



▲服飾類の調査



▲木造十一面観音坐像の修理



▲金銅密教法具（五鈷杵）



▲金銅密教法具（種子五鈷鈴）



▲笹野観音堂

【文化財調査】

文化財候補の調査では、法音寺所蔵毘沙門天像^{びしゃもんてんぞう}の調査を実施しました。また、国登録文化財「上杉記念館」の修理を検討するための調査や長町裏のエゾエノキ・成島八幡宮の調査も実施しています。さらに文化庁・県の指導により米沢市上杉博物館所蔵の「上杉文書」調査事業について検討し、令和3年度から5ヵ年計画で史料調査事業を行うことになりました。

文化財保護行政の中でも文化財調査は重要であり、今後も文化財指定や修理事業などにつなげられるよう計画的に行っていきます。



▲毘沙門天像の調査



▲上杉記念館の調査



▲長町裏のエゾエノキの調査



▲上杉文書の調査

【行屋の小修理（差し茅）】

国有形民俗文化財の「行屋」は農村文化研究所に2棟、米沢市上杉博物館に1棟が所在しています。農村文化研究所所在の1棟の茅葺屋根^{かやぶき}の痛みが目立ってきたため、差し茅を実施しました。茅葺の技能を有する職員が、痛みの大きい箇所を中心に差し茅を行い、文化財の保護を図りました。



▲行屋の差し茅の様子



▲萬世大路散策（未来に伝える山形の宝）



▲綱木獅子踊り

今年度は、新型コロナウイルスに^{ほんろう}翻弄された1年となりました。文化財行政においても一部事業に遅れが出たり、民俗芸能や文化財関係のイベントが中止に追い込まれるなど、大きな影響がありました。文化財を取り巻く環境が厳しさを増す中、限界集落に伝わる綱木獅子踊り^{つなぎししおど}が地域の尽力により開催されたことは、明るいニュースとなりました。

上記の他、例年どおり、市指定史跡直江石堤の草刈・雑木除去や国・県指定文化財への管理費補助事業、民俗文化財への支援、未来に伝える山形の宝登録団体への協力なども引き続き実施しています。今後とも文化財保護への御理解と御協力を、よろしくお願いします。

埋蔵文化財事業

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、現場作業などを実施しました。重点事業は、市道窪田小東廻り線道路改良工事に伴う桐ノ木遺跡の緊急発掘調査と史跡館山城跡の確認調査です。この他、個人住宅建設工事に伴う緊急発掘調査を2件と普門院本堂の確認調査を実施しました。館山城跡の調査は文化財事業特集で詳述していますので、それ以外の事業概要を紹介します。

【市道改良工事に伴う 桐ノ木遺跡第3次発掘調査】

窪田小学校のすぐ東側に位置する遺跡です。今年度は市道建設部分の第3次発掘調査を実施し、古墳時代と中世の遺構・遺物が確認されました。古墳時代の遺構は、調査区北側から河川跡が確認され、古墳時代後期の土器が密集して出土する場所がありました。中世の遺構は、掘立柱建物跡1棟が検出されました。

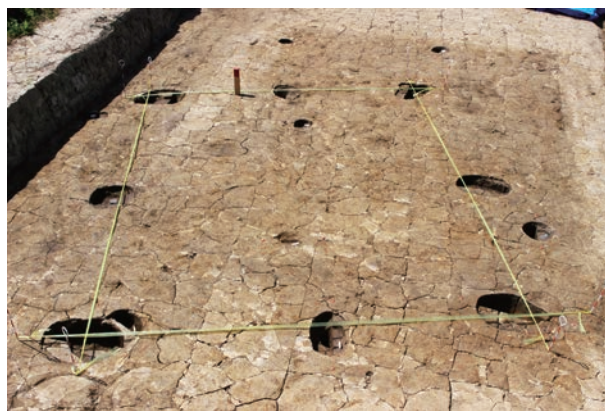
桐ノ木遺跡は、2年間に亘る発掘調査で古墳時代は墓域や祭祀場、中世は屋敷地として機能していたことがわかりました。今年度は、第2・3次発掘調査の報告書も作成しています。



▲桐ノ木遺跡第3次調査区全景（北から撮影）



▲河川跡から出土した古墳時代後期（6世紀）の土器



▲中世の掘立柱建物跡

【市内遺跡発掘調査事業】

埋蔵文化財に関する発掘届及び分布調査の依頼の対応件数は、令和3年2月28日現在48件で、例年よりやや多い件数となっています。このうち個人住宅建設に伴い、3箇所では緊急発掘調査を実施しました。

【館山平城跡の緊急発掘調査】

個人住宅建設工事に伴い、緊急発掘調査を実施しました。本調査では中世から近世にかけての掘立柱建物跡の一部などを発見しました。遺物はかわらけや磁器皿（初期伊万里）の破片などが出土しています。



▲館山平城跡調査区全景（南東から）

【田中屋敷跡の緊急発掘調査】

こちらも個人住宅建設工事に伴い、緊急発掘調査を実施しました。掘立柱建物跡の一部や井戸跡などの遺構を発見しました。遺物は、中国から輸入された青磁碗、内耳土鍋、磁器（初期伊万里）、岸・相馬焼（福島県）などが出土しています。調査範囲は狭いですが、多数の柱穴を中心に遺構の密度は濃く、中世から近世にかけて長期間に亘って存続した屋敷跡の一部を調査したと考えられます。



▲田中屋敷跡調査区全景（南から撮影） ▲石組みの井戸跡

▲柱穴下部から出土した青磁碗の破片

【普門院本堂の確認調査】

令和元年度から普門院本堂の保存修理工事を実施していますが、今年度は礎石の沈下状況や下部遺構の把握を目的とする調査を実施しました。調査の結果、寛政8年（1796）8月に再建された現本堂の建築面の約40cm下部から、寛延3年（1750）に火災で焼失した古い本堂の礎石を据えた根石と考えられる遺構を発見しました。礎石は撤去されていますが、埋土から梵字が書かれた礫石経が出土しており、火災後に行われた地鎮の跡と考えられます。



▲普門院本堂調査区全景（北から撮影）



▲礫石経出土状況



▲礎石採取穴埋土から出土した礫石経

【埋蔵文化財の活用】

例年であれば市内の小中学校や大学の授業等で、米沢市埋蔵文化財資料室に収蔵している遺物を公開・活用していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で思うように実施できませんでした。来年度も難しい状況が続くとみられますが、明るい話題として平成28・29年度に緊急発掘調査を実施した大南遺跡の出土遺物が文化庁主催の「発掘された日本列島2021」に出展されることとなり、本市が誇る埋蔵文化財を全国に発信できる貴重な機会となります。今後も変わらぬ埋蔵文化財保護への御理解と御協力をお願いいたします。

《第9回 文化財事業特集：史跡館山城跡の発掘調査》

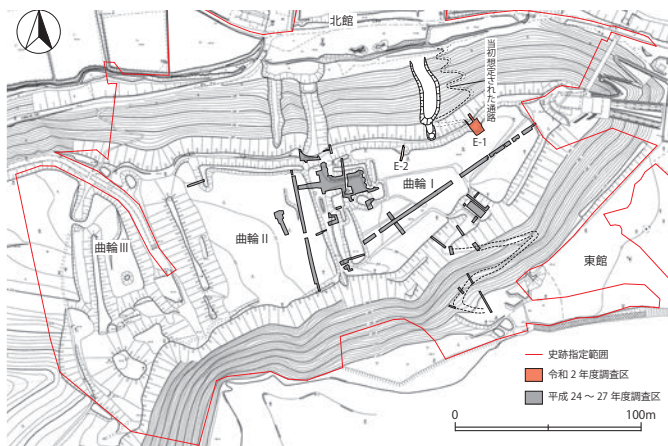
特集では、平成 27 年度以来 5 年ぶりに調査を再開した史跡館山城跡の調査概要や、関連事業についてご紹介します。

史跡館山城跡とは

史跡館山城跡は、仙台藩伊達氏の正史『伊達治家記録』にみえる「館山城」に比定される戦国～江戸時代初期の城館跡です。米沢市西部の大字口田沢・館山地内の丘陵上に築城された山城と、それに伴う東館・北館と呼ぶ山麓居館（根小屋）で構成される城館跡で、南側の大樽川、北側の小樽川を堀とした天然の要害です。平成 28 年 3 月 1 日付けで国の史跡となりました。

※史跡とは：我が国の歴史の正しい理解のために欠くことができず、かつ、その遺跡の規模、遺構、出土遺物等において、学術上価値のあるもの
これまでの発掘調査

史跡館山城跡の調査は、平成 10 年度に実施した測量調査や平成 13 年度に実施した館山北館跡の発掘調査を皮切りに、平成 22 年度から史跡指定を目指した発掘調査や測量調査を実施しています。平成 25 年度調査で山城の曲輪Ⅰ西側の櫓形虎口を構成する土塁から、江戸時代初期の石垣が発見され、戦国期の山城を上杉氏が再整備していたことが明らかになっています。



▲史跡館山城跡縄張図と調査区の位置図



▲史跡館山城跡全景（東から撮影）



▲曲輪Ⅰ西側の櫓形虎口と石垣（西から撮影）

令和2年度の発掘調査成果について

今年度は、山城と山麓居館を結ぶ北側の通路を確認するため、曲輪Ⅰ北東側の虎口（城の出入口）と通路が想定される場所に調査区（E-1 区）を設定しました。

調査の結果、虎口を想定した幅約 4 m の方形の落ち込み（SX51）は、堆積土の状況から廃城後に掘られた遺構であることがわかりました。そこから斜面を下る通路面等も確認されず、この場所には当初想定した通路は無いと判断しました。

城に伴う遺構は、曲輪Ⅰ北縁の土塁と北斜面の切岸（人工斜面）を確認しました。土塁は基底部のみ確認され、残存する高さは約 20cm です。切岸は地山（段丘礫層）を削り出し、中段に溝状遺構を伴います。平成 27 年度調査でも同様の遺構を確認しており、曲輪Ⅰ北斜面の中段は、

現況では幅の狭い平坦地（帯曲輪^{おびぐるわ}）となっていますが、本来は深さ 40cm 程度の小規模な溝が巡っていたと考えられます。城に伴う遺物は、内耳土鍋・かわらけ片等が出土しています。

E-1 区から約 40m 西側にも幅約 8 m の落ち込みがあることから、この場の性格や時期を確認するため E-2 区を設定しました。

調査の結果、落ち込みは後世の遺構であることがわかりましたが、城に伴う遺構として土塁を確認しました。ここでは積土も確認され、残存する高さは約 40cm です。なお、落ち込みに沿うように土塁が付くことから、元々腰曲輪^{こしぐるわ}のような施設が存在した可能性があります。

令和 2 年度調査のまとめと今後の予定について

今年度の調査では新たな通路を確認できませんでしたが、曲輪Ⅰ北縁に土塁があったことを確認しました。来年度は曲輪Ⅲ北側で通路が想定される場所の調査を実施する予定です。また、史跡保存活用計画策定にむけた作業を進めていきます。



▲ E-1 区 SX51 全景（北から撮影）



▲ E-1 区 切岸と段丘礫層（東から撮影）



▲ E-2 区 土塁断面（東から撮影）



▲発掘調査現地説明会

史跡の公開と活用

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発掘調査現地説明会は参加人数を絞り、毎年座学と現地見学の 2 本立てで実施している西部小学校 6 年生を対象とした出前授業も内容を変更して実施しました。

この他、内容を新たな知見を加えて一部改訂したリーフレットを 20,000 部作成し、各所に配布しました。こちらは米沢市のホームページからダウンロードすることができます。



▲米沢市立西部小学校での出前授業風景

令和 2 年度 米沢市文化財関係事業

区 分	令和 2 年度の重点事項	令和 2 年度の主な事業報告
1. 文化財共通	○事業の記録 ○文化財に関する諮問機関の開催 ○文化財行政推進大会への参加 ○文化財の普及・教育	・「米沢市文化財年報」No.33の発行 ・米沢市文化財保護審議会の開催 (第1回R2.8.7 第2回R3.3.9開催予定) ・全国史跡整備市町村協議会東北地区協議会・山形県史跡整備市町村協議会への参加(新型コロナウイルスの影響により中止) ・埋蔵文化財資料室・史跡等の見学対応・出前講座の実施
2. 一般文化財	○文化財の調査 ○文化財の保存・活用 ○指定文化財保存管理の充実 ○指定文化財環境整備の促進 ○無形民俗文化財後継者の育成	・文化財及び指定文化財候補の調査(法音寺文化財・上杉文書・笹野観音堂・成島八幡宮・上杉記念館等) ・文化財巡回指導(国・県指定文化財) ・国指定史跡「上杉治憲敬師郊迎跡」(普門院本堂)保存修理事業(13年目) ・国指定文化財「服飾類(上杉謙信、景勝所用)」ほか保存修理事業(5ヵ年事業の2年目) ・国指定文化財「鍵(城州埋忠作)」保存修理事業2ヵ年事業の1年目) ・国指定文化財「長尾上杉氏印章」保存修理事業(単年度事業) ・市指定文化財「十一面観音坐像」保存修理事業 ・国指定文化財「行屋」の管理、小修繕(差し茅) ・国指定特別天然記念物「カモシカ」の保護 ・市指定天然記念物「ホタル」及び同「吾妻の白猿」の保護調査 ・文化財防火デー(上杉治憲敬師郊迎跡「羽黒神社」) ・未来に伝える山形の宝事業への協力(芳泉町・笹野・万世地区) ・県指定天然記念物「山上の大クワ」の管理 ・国指定史跡「上杉治憲敬師郊迎跡(普門院・羽黒神社)」及び同「米沢藩主 上杉家墓所」管理に係る補助 ・県指定天然記念物「長町裏のエゾエノキ」管理に係る補助 ・国指定史跡「一ノ坂遺跡」及び市指定史跡「戸塚山古墳群」、同「谷地河原堤防(直江石堤)」の環境整備(草刈・雑木除去等の実施) ・県指定無形民俗文化財「梓山獅子踊」保存会への補助・「綱木獅子踊」保存会への支援(企業メセナへの応募等)
3. 埋蔵文化財	○埋蔵文化財の調査 ○埋蔵文化財の情報収集及び周知 ○報告書の作成 ○埋蔵文化財の保存・活用	・国指定史跡「鎭山城跡」の範囲・内容確認調査 ・鎭山城跡リーフレットの増刷 ・公共事業(市道拡幅)に伴う桐ノ木遺跡緊急発掘調査受託事業(第3次調査) ・個人住宅建設に伴う緊急発掘調査2件 ・普門院本堂の確認調査 ・開発事業に伴う事前協議及び埋蔵文化財包蔵地における分布調査・確認調査 ・米沢市埋蔵文化財調査報告書第119・120集の刊行(桐ノ木遺跡第2・3次、市内遺跡) ・埋蔵文化財資料室の維持管理

発行 米沢市教育委員会教育管理部文化課文化財担当

〒992-0012 米沢市金池三丁目1番14号

T E L : 0238-22-5111 (内線 7530、7531)

F A X : 0238-21-6020

E-mail : bunkazai-t@city.yonezawa.yamagata.jp